

## ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第18回〕

## 弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

ドラゴンボール欲しい

シンガーソングライターやバンドをやっている方は、当たり前前に自分のオリジナル曲を作ります。

それが、ことヴァイオリニストやピアニストだと、自作曲を演奏する人はそう多くはありません。

自分を表現するのに再現音楽しかない、という決めつけがあるとしたらおかしな話で、もともと、オリジナル曲を演奏するヴァイオリニストやピアニストがいてもいいですよ。

音大では、演奏科専攻と作曲科専攻がはっきり分かれています。

演奏科では毎年実技試験があり、学校にもよりますが、スケールや練習曲、そしてコンチェルトやソナタなどの何百年も前から弾き継がれている名作を演奏します。

週一で実技のレッスンを受け、毎日欠かさず何時間も練習をし、実技試験で試験官からはもちろん乾いた拍手一つありません。

高校に入ってから衝撃的な洗礼を受けました。

当時コンクールでもすごい成績を残していた上手な先輩に、どのくらい練習しているのか尋ねたところ、

その先輩は「私は1日7時間練習しないと罪悪感が残る」とクールな顔で平然と言いました。

世の中に1日に7時間もやらなきゃいけないことなんて睡眠しかないと思っていましたから。

音大生の基本的な目標は「楽器の上達」であって、それを表現することが全て。

そして、作曲科があることによつて、完全に「演奏する人」「作る人」という住み分けもありました。

「今まで触れてきた音楽が素晴らしすぎる上、専門の作曲科の人たちがいるのに、演奏科の自分たちが作曲するなんて、おこがましい」と音高、音大生には知らず知らずのうちにそういうバイアスがかかっていきます。

僕も作曲をしていて「自分なんか」という気持ちは今でも正直ありますが、音楽が大好きで、等身大で表現していくことは全く悪いことではないので、これからはジャンジャン作っていいこうと思います。

これからAIの進化が著しいと言われている中、日本の職業のあり方や、環境も変わっていく。

そう考えた時に、1つのルール上



## profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。  
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。  
2010年キングレコードからメジャーデビュー。  
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。

だけで戦うのではなく、自分の閃きとセンスをフルに活用できるマルチな能力が必要になるのでは。

そしてそれは芸術の世界も同じことで、質が高いだけでは生き残っていけない時代に突入しています。

とんでもない閃きが欲しい！そしてそれを続けていく継続力が欲しい。

出でよ神龍！我が願いを叶えたまえ。

（女性の読者さま、もしかしてちんぷんかんぷんかも。すみません）